

2015. 8. 1

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

TEL083-924-2111 FAX083-932-2817

<http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

**★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！**

「子ども読書支援センターニュース」は、メールマガジン「本はともだち」でも読むことができます。  
 新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

**【山口県子ども読書支援センター行事】**

**★幼児のためのおはなし会**

○日時：8月4日（火）11:00～11:40 ○会場：山口県立山口図書館 ○対象：2、3歳児とその保護者  
 ○内容：絵本の読み聞かせなど

**★中高生の読書会**

○日時：8月9日（日）13:00～16:00 ○会場：山口県立山口図書館 ○対象：中高生、学校関係者  
 ○定員：30名（要申込）○申込・連絡先：山口県子ども読書支援センター

**★新刊児童書閲覧会**

○日時：8月20日（木）10:00～12:00 ○会場：山口県立山口図書館  
 ○対象：市町図書館職員、学校図書館関係者、ボランティア関係者、子どもの本に関心のある人  
 ○定員：30名（要申込み、先着順）○申込先：山口県子ども読書支援センター

**★学校図書館セミナー**

○日時：8月25日（火）14:00～15:30 ○会場：山口県立山口図書館  
 ○講師：小畑信夫（図書館・メディア研究所代表）○演題：「正しい+学校図書館の基礎知識」  
 ○対象：学校図書館関係者、ボランティア等、○定員：60名（要申込み、先着順）  
 ○申込先：山口県子ども読書支援センター

**★子ども読書ネットワークフォーラム in 下松**

○日時：9月16日（水）10:00～14:45 ○会場：ほしらんどくだまつ  
 ○内容：講演会、事例発表、展示など ○講師：広瀬恒子氏（親子読書地域文庫全国連絡会 代表）  
 ○演題：「どうやって関わる？ どうやって運営する？ 私たちのボランティア活動」  
 ○対象：市町立図書館職員、学校図書館関係者、読書ボランティア、子供の本に関心がある人  
 ○定員：80名（要申込み、先着順）○申込み・問合せ先：下松市立図書館（0833-41-0093）

**【新刊紹介】** 価格は消費税抜き

**<絵本-乳幼児から>**

**『きをつけて 1』五味太郎/さく 童心社 2015.6 ¥1,000**

大きいトラックの後ろから、小さいトラックがついてきた。大きい方を抜き、ぐんぐん行く。気をつけて。坂道でスピードが落ちた。大きい方が後ろから押して、ほら大丈夫！離れて見守ったり、必要な時は手を差し伸べたり…。「気をつけて」の繰り返しにほっとする、温かな眼差しに溢れた赤ちゃん絵本。シリーズ3冊同時刊行。2、3巻は飛行機と船が主人公。

**<絵本-3, 4歳から>**

**『お～しまい!…かな?』 ジム・ペントン/さく 中井はるの/訳 岩崎書店 2015.5 ¥1,400**

クマのドーナツ君が登場。ご挨拶して、という語りかけに対して、出したのは…ゲップ! 「お行儀悪い子は、お～しまい」と言われてしまう。それでも、ダジャレを言ったり、変装したり、あの手この手で読み手に話しかけようとして…。ドーナツ君への語りかける形式でのユーモア溢れるかけ合いは、臨場感たっぷり。読み聞かせて大笑い間違いなし。

**<絵本-5, 6歳から>**

**『ちいさなメリーゴーランド』 マーシャ・ブラウン/作 こみやゆう/訳 瑞雲舎 2015.6 ¥1,400**

ここは、ニューヨークのサリバン・ストリート。皆が楽しそうに過ごす中、アンソニーが家で1人、退屈そうに窓から通りを眺めていると、楽しい音楽が。馬が引く、移動式のメリーゴーランドがやってきたのだ! 家から飛び出し、皆でライオンや白馬に乗って楽しんで…。作者の実体験が元となったデビュー作。作者の最後の仕事となった書き下ろし解説付き。

**<絵本-小学校低学年から>**

**『ライフタイム いきものたちの一生と数字』 ローラ・M. シェーファー/ぶん クリストファー・サイラス・ニール/え 福岡伸一/やく ポプラ社 2015.6 ¥1,500**

一生の間に、トナカイの角は10回生えかわり、カンガルーの雌は50匹の赤ちゃんを産み、バンドウイルカの歯の数は100本。これは、生き物の一生を調べてわかった「数字」達。観察記録や平均寿命を元に、できるだけ正確な数字が記されている。グラフィカルなイラストを見て、実際に数を数え、生き物達の一生に隠された数字の不思議を楽しむ科学絵本。

**<絵本-小学校高学年から>**

**『ジェーンとキツネとわたし』 ファニー・ブリット/文 イザベル・アルスノー/絵 河野万里子/訳 西村書店 2015.6 ¥2,200**

エレヌは学校で居場所がない。そう感じる時、本を開いて大好きな「ジェーン・エア」の世界に閉じこもる。ある日、皆と合宿に行くことになり、そこで起こった出来事をきっかけに、小さな変化が起こり始め…。多感な少女の心を、細やかに描く。カナダ総督文学賞受賞。気鋭のイラストレーターが描くグラフィック・ノベル(小説全編に挿絵を付けた作品)。

**<読み物-低学年から>**

**『とりはだは どうやったら つくれる?』 川北亮司/作 新日本出版社 2015.5 ¥1,200**

プールの授業の日、雷が鳴って急に冷たい風が吹いてくると、ゆいの中では「とりはだ」が。でも友だちは誰も「とりはだ」を知らない。どうやったら「とりはだ」をつかって見せることができるのか。こわかったら？感動したら？美人を見たら？楽しかったら？1年生のゆいは試行錯誤し、その記録を探偵ノートに書いていく。「1ねんおもしろたんていだん」シリーズの2巻目。

#### <読み物—中学期から>

『**わすれものの森**』 岡田淳 浦川良治/作 BL出版 2015.6 ¥1,300

学校に忘れて帰ったたて笛。ツトムは取りに戻るがどこにもない。いったいなくなってしまったものは、どこでどうなっているのか…？忘れ物が集められているという忘れ物の森に、探しに行く。子どもたちに身近な「わすれもの」をテーマにした楽しい物語。40年前に岡田・浦川氏のペンネーム「ねべりよん」で出版された『忘れものの森』（文研出版）の復刊。

#### <読み物—高学年から>

『**それぞれの名前**』 春間美幸/著 講談社 2015.5 ¥1,300

自分のことを下の名前で呼ぶのをやめるタイミングっていつ？幼なじみを名前で呼ぶのを、人がどう思うか気になり始めるのはなぜ？5年2組加藤学級の6人の、名前にまつわる出来事を描いた作品。第55回講談社児童文学新人賞佳作入選作品。

『**幽霊魚**』 福田隆浩/著 講談社 2015.6 ¥1,300

春に父親と2人で通勤先の島に渡ってきた知希。夏休みに親しくなった、正人と英治と共に、「幽霊魚」と呼ばれる幻の魚を捕まえようと躍起になる。「幽霊魚を釣り上げれば大事なものを取り返せる。」という話に、願いがこめられている。作者は長崎県在住で、会話は長崎弁で書かれており、漁師らしい雰囲気が味わえる。

#### <読み物—中学生から>

『**うたうとは小さなのちひろいあげ**』 村上しいこ/著 講談社 2015.5 ¥1,500

友達を作らないと決心して高校に入学した桃子。清ら先輩に強引に連れ込まれた「うた部」に居場所を見つけ、個性的な先輩達に心を開いていく。一方、不登校の親友綾美は自分の殻に閉じこもりブログに思いのたけをぶつける日々。綾美の不登校に責任を感じている桃子は綾美を「うた部」へ誘うが…。短歌を通して人間理解を深めていく少女の姿を描く。

『**神々と戦士たち1**』 ミシェル・ペイヴァー/著 中谷友紀子/訳 あすなろ書房 2015.6 ¥1,900

12歳の孤児ヒュラスは、突然、青銅の短剣を探す黒ずくめの戦士達に襲われ、大自然の脅威と闘いながらはぐれた妹を探す。迫る戦士達、イルカのスピリットや大巫女の娘ピラとの出会い、親友の裏切り…ヒュラスは妹と再会できるのか。「クロニクル千古の闇」シリーズの作者による、青銅器時代のギリシアを舞台にした歴史冒険ファンタジー・シリーズ第1弾。

#### <ノンフィクション—小学校低学年から>

『**地球と自然がわかるうみのえほん**』 ぼここうぼう/え 学研教育出版 2015.6 ¥1,500

「うみのふしぎ」「うみのいきもの」の2部で構成され、海で見られるさまざまな自然現象や、海で生活する生き物について、かわいイラストを使ってわかりやすく説明。潮の干満の仕組みや海流など、高度な内容もあるが、すべてひらがなで表記されており、低学年から活用できる。

#### <ノンフィクション—小学校高学年から>

『**10歳の質問箱**』 日本ペンクラブ「子どもの本」委員会/編 鈴木のりたけ/絵 小学館 2015.6 ¥1,300

「死のうと思ったことはありませんか？自殺したいことですか？」日本ペンクラブ「子どもの本」委員会の55名の言葉のプロが、34の子どもの質問に答える。「すっと胸にしみこむ文章があったら、どうか何度も読み返し、あなたの深いところにききみこんでください。」という願いを込めて。

#### <ノンフィクション—中学生から>

『**大人になるっておもしろい？**』 清水真砂子/著 岩波書店 2015.4 ¥840

「かわい」を疑ってみない？ひとりであるっていけないこと？自信ってなんだろう？『ゲド戦記』の訳者が、架空の学生に宛てた手紙形式で優しく語りかけるエッセイ集。児童文学者として、また大学教授としての経験から、悩む若者の視野を広げる意外な視点を与えてくれる。心の成長の助けになる物語作品の紹介もある。岩波ジュニア新書。

#### <研究書>

『**学校図書館ははじめの一歩**』 みの会/編集 みの会 2015.4 ¥500

東京子ども図書館で児童図書館員の研修を受けたのち、学校図書館で勤務した経験のあるメンバーで結成された勉強会「みの会」が、学校図書館初心者役に役立つテキストを作成。コミュニケーションの取り方、オリエンテーションの指導案、図書日よりやブックリストなどの情報発信の仕方、分類・選書・展示など、必要最小限の内容を網羅的に取り上げた実践的な書。

#### 【県内の動き】

##### ★図書館ボランティア養成講習会

○日時：8月5、12、19日 10:00～12:00 26日 13:30～15:30

○会場：防府市立防府図書館

○内容：5日「子どもの育ちと学校図書館」梅本恵氏

12日「図書館ボランティアのための図書館サービス基礎知識」森川信夫氏

19日「絵本の魅力と読み聞かせ」山本安彦氏

26日「色々な本との出会いを作る ブックトークと科学あそび」河井律子氏

○定員：各40人（先着順 1回だけの受講可） ○問合せ先：防府市立防府図書館（0835-22-0780）

##### ★学校図書館講演会

○日時：8月22日（土）14:00～16:00

○会場：防府市立防府図書館

○講師：加藤容子氏（岡山県津山市立中学校学校司書）

○演題：「学びの自由を支える学校図書館～学校司書の常駐する中学校での実践活動～」

○資料代：500円 ○問合せ先：防府市立防府図書館（0835-22-0780）

※子どもの本や読書についてのイベント情報をお寄せください。